

経済・金融 フラッシュ

雇用関連統計 12年2月

～改善する労働需給と拡大する地域間のミスマッチ

経済調査部門 主任研究員 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 失業率は前月から0.1ポイント低下の4.5%

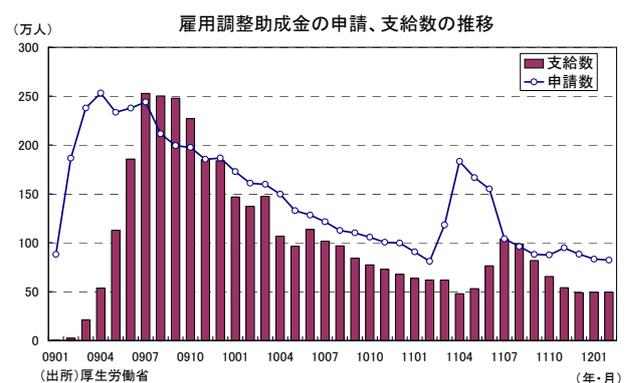
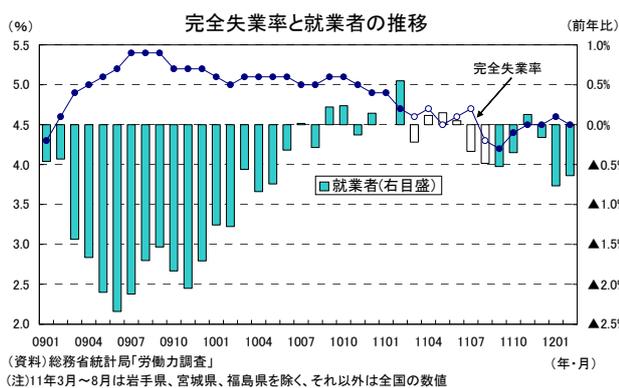
総務省が3月30日に公表した労働力調査によると、12年2月の完全失業率は前月から0.1ポイント低下し4.5%となった（QUICK集計・事前予想：4.6%、当社予想は4.5%）。

労働力人口が前月から23万人増える中、就業者数が29万人の増加となったため、失業者数は前月に比べ7万人の減少となった。

失業者の内訳を求職理由別に見ると、自発的な離職による者が前月よりも4万人増加（1月：102万人→2月：106万人）する一方、勤め先や事業の都合などによる非自発的な離職による者が前月から5万人減少（1月：109万人→2月：104万人）した。

2月は労働市場への参加者が増える中、就業者がそれを上回る増加となったことで失業率が低下しており、非常に良い内容と言えるが、1月はこれとは全く逆の動き（労働力人口27万人減、就業者35万人減、失業者9万人増）となっていた。1月、2月を均してみれば雇用情勢は緩やかな改善傾向が続いていると判断される。

なお、東日本大震災直後に急増した雇用調整助成金の申請数は、振れを伴いながらもこのところ減少傾向で推移している。

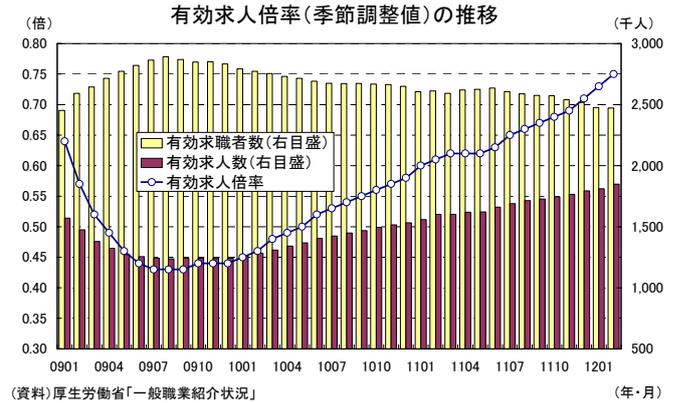


2. 労働需給の改善傾向が鮮明となるが、地域間のミスマッチが拡大

厚生労働省が3月30日に公表した一般職業紹介状況によると、12年2月の有効求人倍率は前月から0.02ポイント上昇し0.75倍となった（QUICK集計・事前予想：0.74倍、当社予想も0.74倍）。

有効求人数が前月比 2.1%と 11 ヶ月連続で増加する一方、有効求職者数が前月比▲0.2%と 8 ヶ月連続で減少した。

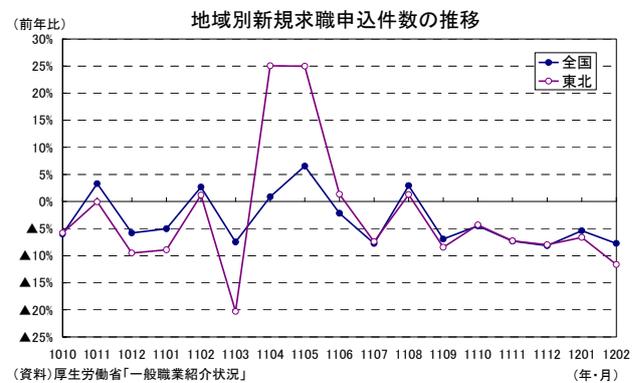
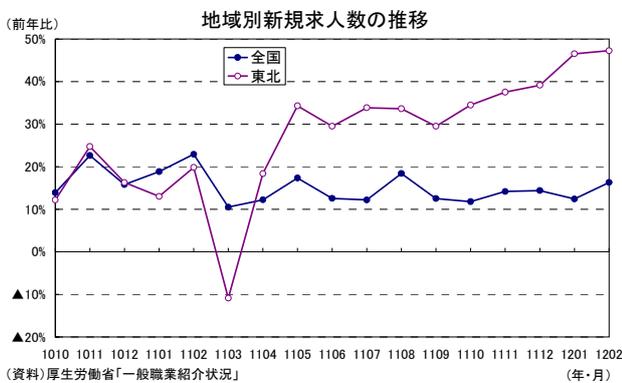
有効求人倍率の先行指標である新規求人倍率は前月から 0.07 ポイント上昇の 1.27 倍と上昇となった。新規求人数は前月比▲0.3%と 5 ヶ月ぶりに減少したが、新規求職申込件数が前月比▲5.8%の大幅減少となったことが新規求人倍率を大きく押し上げた。



新規求人数を地域別に見ると、直接の被災地である東北地方は、震災が発生した 11 年 3 月は大きく落ち込んだものの、4 月以降は復旧、復興に向けた求人増を背景に全国を大きく上回る高い伸びを続けており、12 年 2 月は前年比 47.2% (全国：同 16.3%) となった。

一方、東北地方の新規求職申込件数は震災後の 11 年 4 月、5 月は急増したものの、その後は減少傾向が続き、12 年 2 月は前年比▲11.6%の大幅な減少となった。この結果、2 月の就職件数 (季節調整値) は前月比▲4.3%の減少となり、充足率 (新規求人数に対する就職件数の比率) も前月に比べ▲1.1 ポイント低下した (1 月：26.9%→2 月：25.8%)。

労働需給は改善傾向が鮮明となっているが、企業が求めている地域に労働者が十分に集まらないという地域間のミスマッチが雇用伸び悩みの一因になっていると考えられる。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保证するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。